

四代にわたる人形師と 太宰府天満宮との関わり

太宰府天満宮宝物殿では、創業大正6年(1917)の老舗中村人形四代の人形師に焦点を当てる企画展「中村人形と太宰府天満宮」を開催します。

初代筑阿弥(1897~1947)が博多人形を生業としてはじめた中村人形は、衍漚(1921~1992)、信喬(1957)、弘峰(1986)へと脈々と受け継がれてきました。博多人形は、慶長5年(1600)の黒田長政の筑前入国に伴い、集められた陶工たちが生み出したのが原点と伝われます。素焼きに着色という大原則の他は作り手に委ねられるというその大らかな土壌は、確かな技術と精神を受け継ぎ、時代とともに変化することをして、中村人形の理念を醸成してきたのです。さらに、近年創作の場は国内外に広がり、その型に収まらない人形のありように熱い視線が注がれています。

当宮では、境内の樟を材料に信喬氏に依頼した御神牛像をはじめ、信喬・弘峰親子による作品を収蔵してきました。さらに、平成15年(2003)からは、千支の土鈴などの正月の縁起物を中村人形に手掛けていただいています。伝統工芸の世界に身を置きながら、作品を通して、古来変わらない人の祈りに時代の今を見出し、そうとする中村人形に通底する姿勢を前期、後期に分け、バラエティー豊かな内容でご紹介いたします。

前期 中村人形四代の祈りのかたち

令和3年(2021)9月18日(土)~12月7日(火)[※]

師匠と弟子の間には父子であっても常に緊張感と互いへの尊敬の念があり、それぞれの人形には「祈り」が込められてきました。本展のために三代目信喬氏が天拝山への取材を経て取り組んだ、国家鎮護と自身の潔白を天に祈られた御祭神 菅原道真公のお姿「菅公天に祈る」をご紹介します。

後期 今をいきる人形たち

12月11日(土)~令和4年(2022)3月13日(日)[※]

四代目弘峰氏は大学院修了後の半年間、当宮で6千本の梅の剪定をはじめとする様々な仕事に携わり、その経験は作品「花守」へと昇華されます。あわせて弘峰氏の意匠による登龍門伝説にちなんだ御本殿の御帳と楼門の門柱幕を展示室に設え、演出家としての仕事にもスポットを当てます。



中村信喬 木彫「御神牛」平成14年(2002) 通期

1. 中村信喬「千支(甲午)置物」平成26年(2014) 通期
2. 中村衍漚「馬」通期
3. 中村弘峰「影彫」平成27年(2015) 前期
4. 中村信喬「壽童子」平成23年(2011) 前期
5. 中村弘峰「天満臥牛」令和3年(2021) 通期
※樓門内にて限定観覧しております
6. 中村信喬「鳥影」平成11年(1999) 前期
7. 中村筑阿弥「コセツ像」通期
8. 中村弘峰「農家」平成28年(2016) 前期



開館時間: 9時~16時30分(入館は16時まで) ※9月20日、10月25日、1月3日、10日を除く月曜休館
会場: 太宰府天満宮宝物殿 第2・企画展示室 〒818-0117 福岡県太宰府市幸府4-7-1
お問い合わせ: TEL 092-922-8225(代表 9時~17時) / 境内美術館ウェブサイト: <https://keidai.art>



表面の作品: 中村信喬「暫・歌舞伎の鬼」平成14年(2002)前期 / 中村信喬「御雲雀」平成25年(2013)前期 / 中村信喬「阿吽五寸の音吉像」平成10年(1998)前期 / 中村信喬 木彫「天神像」平成14年(2002)通期 / 中村弘峰「御龍大聖」平成30年(2018)通期 / 中村弘峰「黄金時代」平成30年(2018)後期 / 中村弘峰「墓開け」平成19年(2007)後期